

主題	施設内研修委員がプロデュースする研修会で得られた成果
副題	技術向上の向こうにある利用者ケアの為に・・・

人材育成	前回のアクティブを振り返り
------	---------------

研究期間	12 ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 第2 サンシャインビル
------	-------	-----	-----------------------

発表者：原島 新、新倉 慎也（はらしまあらた、にいくらしんや）

アドバイザー：島田 井上、福島（しまだ、いのうえ、ふくしま）

共同研究者：施設内研修委員 大谷真澄 酒井みどり 池田広宣 木村浩司 澤田美央

電 話	042-553-3701	メール	sasaki@fukuyokai.or.jp
FAX	042-553-3715	URL	http://www.fukuyokai.or.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成8年3月、横田基地と七夕祭りで有名な福生市に開設しました。特養利用者154名、短期入所16名と合わせデイサービス等も併設している大きな施設です。理事長・統括施設長の掲げる「人がその人らしく生活できる環境作り」をモットーに、利用者の皆さんと職員の笑顔が絶えない明るく活気のある施設です。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

昨年のアクティブ福祉で「職員が主体となって施設内研修委員会を運営することで得られた意識の変化」と題した発表を行わせていただきました。その発表の内容及び研修後のアンケートの結果から下記のような課題が改めて明確になりました。

解決すべき問題

1. 業務との兼ね合いで参加したくても出来ない。（「私も参加したかった」の声が多く聞かれるようになってきた。）
2. 新人・中堅・指導者等で学習すべき目的が違ってきている。
3. 研修内容のマンネリ化

〔課題〕

- ① 研修会の時間や回数など構成・枠組みの改善
- ② 対象者を絞っての研修会開催
- ③ 研修内容の充実

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

それぞれの課題について、下記の通りの成果を期待する

- ① 研修会の時間や回数など構成・枠組みの改善
→ 研修会の構成や開催時期を柔軟に組み立てられるようにすることで、これまで参加できなかった職員の参加が期待できる。
- ② 対象者を絞っての研修会開催
→ 「新人」「中堅」等対象を絞ることで、研修の内容に変化をつけることができ、また今直面している問題の解決につなげる。
- ③ 研修内容の充実
→ 専門職による講義等により、具体的・専門的な知識が得られる。また、他職種との意見交換もでき、チームケアの更なる向上に繋がる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

① 研修会の構成

- ・ 開催時間の短縮、開催回数の増加
- ・ 時間外研修会の開催
- ・ 施設内研修員会の実施回数増加

② 対象者を絞っての研修会開催

a. 講師選択の工夫

- ・ 外部の講師を招く
- ・ 他部署（専門職）に依頼
- ・ 中堅または役職者による新人研修

b. 専門研修

- ・ メンタルヘルス
- ・ 排泄
- ・ リハビリ
- ・ 医療

③ 研修内容の充実

- ・ 参加（体験）型研修会
「排泄」「入浴」「生活リハビリ」
- ・ 事前アンケートの活用
- ・ 外部講師を招いての公開研修会
- ・ 施設内研修発表会（ミニアクティブ）
フロアごとの取り組みを年度末に発表。

《4. 取り組みの結果と考察》

① 研修会の構成を工夫したことで、参加人数の増加につながった。時間外研修も2回開催。

② 対象者を絞っての研修会では…

- ・ 中堅職員対象の研修会では、普段わかっているつもりだったケアについて、根拠も含め改めて勉強することができたと概ね好評であった。
- ・ 新人研修では、知識・技術の再確認が出来たとの声があった一方で、講師を担当した中堅職員からも「教える」ことの難しさとともに「やってよかった」という達成感も聞かれた。
- ・ 役職者向けのメンタルヘルスケア研修での成果は人事考課面接に反映できた。

③ 研修内容の充実については、「参加（体験）型研修」で利用者の立場で体感したことで日々のケアに反映することができた。

また、ミニアクティブで発表を担当した若手職員は、業務知識の向上に繋がったと話し、周りの職員からも「成長した」との評価が聞かれた。

研修内容への要望も以前より多く聞かれるようになり、意欲向上に繋がっている。

《5. まとめ、結論》

より良いケアの為にと考え、参加する職員の意見を取り入れて研修会を開催したことにより、他部署間との交流、情報共有の円滑化が図れ、職員のスキルアップや職員個々の意識も良い方向で変化しました。施設内研修を通じ「パーソンセンタードケア」を理解し、施設全体の成長と意識改革に繋がり、当初の課題はある程度達成できた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に書面及び口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

該当なし

《8. 提案と発信》

講義型の研修会では、聞き手が受け身になってしまいがちですが、参加型の研修会を取り入れる事で、チームで研修会を行っているという「自覚」「連帯感」が生まれたと感じます。又、技術の向上だけではなく、利用者様の為にと思う事で、「向き合う姿勢」や「心のケア」等も、より深くなってきたと思います。そのような研修会をチームで作りに上げていく事で、より良いケアと安心を利用者様に提供していけるのではないのでしょうか。

【メモ欄】